

(有村治子参議院議員挨拶)

ふるさと滋賀の党员、党友の皆様、本日は御足元の悪い中、またコロナ禍にも関わらずこうやって大津プリンスに御足を運んで頂いたこと、本当に同志の絆を感じます。

私も候補者になって自民党滋賀県連大会に出させていただいてから今年でちょうど20回目となります。

この20年間、滋賀県出身で比例区、全国区、北海道から沖縄までを選挙区にしておりますけれども、ふるさと滋賀の地元の皆様に温かいご支援と友情と本当に温かい気持ちでお育て頂いていることを噛みしめて、この場に立たせていただいております。

私の存在意義は、滋賀県出身の誇りを持って全国的な視野で国政に参画し、そして願わくば国家国民の安全安心、よりよい未来をつくるためにたった3ミリでもいいから国政を動かすことと心得ております。

国会に送っていただいて20年、この国会では、例えば台湾に対して124万回のワクチンをお届けするという事を主導させて頂くそんな立場になってまいりました。

コロナ禍になって1年半になりますが、痛感することがあります。

それは、菅内閣もこのワクチン接種の成否こそが感染症対策から抜ける切り札だと、今、歯を食いしばって進めておられますけれども、安定的に効果的なワクチンを開発し、そして供給できる国が、世界の中で圧倒的な富を手にし、そして世界中の治験を経ての科学技術の情報を蓄積し、そして外交的にも圧倒的な強い立場に出されてしまうという現実を私たちは突き付けられています。

その中で、ファイザーとモデルナを日本では使っていますが現在、アストラゼネカは、公費負担での接種を見合わせています。

滋賀県のお隣の福井県選出の滝波議員から、私もかねがね台湾を大事にしていますので、アストラゼネカのワクチンを台湾に届けることができなにか、というご相談を受け、それはいいということで日台を大事にする議員に働きかけ、官邸でも動いていただき、6月4日に124万回のワクチンを台湾に届けることができました。

5月17日の発案からわずか2週間で台湾にワクチンが到着しました。

その後も 100 万回の追加があり、アメリカからも台湾にワクチンが届き、それ以外にも日本はベトナムやマレーシアなど東南アジアの国々、特に中国が強力に働きかけを強めている国々に、歯をくいしばって今ワクチンのお届けをしている現状です。

これに対し、東日本大震災のお返しができたと多くの皆様がおっしゃっていただきました。

台湾からも一番困っていた日本に真の友として助けていただいたと喜ばれ、台湾の絆が大きくなっていきました。

その台湾は今中国から圧力をかけられています。

台湾は、自由で民主主義な運営がなされていますけれども、もしここが中国共産党に統一されてしまえば、日本の沖縄県の与那国島からたった 100 キロ超しか離れておらず、ここが中国共産党の最前線になってくる。

この怖さを思えば、私たちはこれからも台湾を大事にしていかなければならないと日本の安全のために思っております。

そんな中で参議院議員の議決として、WHO 世界保健機構に台湾が参加できるようにすべきと、現在は中国の猛烈な反対によって台湾だけが参加できていない状況でございますが、参議院議員の全会派、自民党がまさに主導をしてそれぞれの会派にお願いに頭を下げて、自民党から共産党まで日本国民を代弁する全ての会派の方々に賛同していただいて会期末に、参議院においては WHO に台湾が参加できるようにすべきだという決議を全員起立で可決することができました。

自民党らしい、日本人らしい意思をしっかりと決議に反映して、まさに議会在国民の価値を体現する場であるとの想いを具体化できたと思っています。

今の香港の状況を見ても自由と民主主義を弾圧する中国です。南シナ海での拡張主義、そして尖閣諸島が我が国固有の領土であるにも関わらず、中国が我が物顔で日本の漁船を追尾する現状を、私たちは許すわけにはいきません。

私たちは正にこれからの世界の安定のために、いかにあるべきかということを手元で考えていかなければならない時代に入ったと思っています。

米国とソ連の緊張、その中心はヨーロッパでありました。

しかし、これから米国と中国の緊張、そして世界の繁栄の中心はアジアになります。

その中で明確に民主主義と自由を守ろうと国連の場でも明確に言語化できるのはアジアでも日本だけという状況であります。

先ほど、小椋市長から全県市町長を代表して、自民党は「ぶれるな」という文字通りの叱咤激励を頂きました。

まさにワクチン接種がこれからの大事な懸案になっていきます。

最後に問題提起であります。日本はワクチン接種しますけれども、自民党がぶれたわけでも菅内閣がぶれたわけでもありません。

はしごを外したわけでもありません。

実際にはその様なお叱りを私たちは受けながらやっていかなければなりません。本質的な問題は日本がワクチンの消費国であり続けて良いのかどうかということでございます。

2001年に炭疽菌を経験したアメリカはまさに国防総省が科学技術費の半分を誘導して国民を守るという視点から感染症のワクチンの開発を去年の2月からやっています。

そしてMERS、SARSを経験した中国も人民解放軍がこれまた去年の2月からまだ世界の感染者数が9800人だった時期からワクチンの開発に着手しています。

そんな中で日本では安全保障という視点がワクチン開発の中に全く抜けているという戦後の日本の特性が明らかになりました。

先程、大岡先生から自衛隊の信頼はどうなのかと、しっかりやっていくというお話がありましたけれども、ダイヤモンドプリンセス号しかり、大規模接種しかり、自衛隊は最後の最後に困りに困ったときに自衛隊の関与が求められています。

オウム真理教の時も地下鉄サリンのあの中和ができたのは、まさにやいのやいのと野党から言われても自衛隊が化学班をもっていたからこそ、あのサリンを中和できました。

そういう意味では豚コレラ、鳥インフルエンザの殺処分、そういう仕事も担っていただく自衛隊を「便利屋」として使っていいのかという慎重さを、私たち自民党だからこそ国民の安心安全を作っていく先頭に立っていく自民党だからこそ、その問題提起を国民の皆様働きかけて、そして

国の守りを固めていただく自衛隊をしっかりと憲法に位置付けていくことが大切です。

そして本当に滋賀の人口が増えたのに、代議士定数が減っていくという不条理をしっかりと憲法で是正して、県から1人は参議院に代表が出せるという状況を憲法に反映させて国民の安全と安心を作っていかなければなりません。

その最前線に皆様のお力を頂いている自民党が立っていきたい。そんな思いでこの場に立たせていただいております。

日頃のご支援とあたたかい友情に感謝を申し上げ、私、有村の国政報告とさせていただきます。これからもどうぞ宜しくお願い致します。